

寺田博士と牧野博士のご縁（つづき）

宮 英司

NHKの朝ドラが快調に走っている。ただ、寺田寅彦記念館友の会としては、やがては寺田博士との繋がりも紹介されるだろうと期待しつつ、思いのほか両者の繋がりが知られていないから…、どうなるんでしょうか、と心配することが増えてきた。

*

寺田と牧野は同じ時代を生きている。ある時、二人は「土佐で一番偉いのは誰か」との問いかけに、お互いの名前を即答したという逸話がある。（前号で詳述）

寺田の「随筆難」と題する文章がある。（岩波書店「寺田寅彦全集」第4巻P.210～）

「常山の花」（くさぎのはな）と題する小品の中にある「相撲取草」とは邦語の学名で何に当るかという質問を受けて困ってしまって同郷の牧野富太郎博士の教えを乞うてはじめてそれが「メヒシバ」だということを知った。その後の同様な質問に対しては、さもさも昔から知っていたような顔をして返答することが出来た。

また「沓掛より」の中に次の文章がある。（岩波書店 同全集 第4巻P.360～）

最近にある友人の趣味に少しかぶれて植物界への注意が復活しかけたのと、もう一つには自分の目下の研究の領域が偶然に植物生理学の領域と接触し始めたために、この好機を利用して少しばかりこの方面の観察をしようと思ったので、先ず第一の参考として牧野氏著『植物図鑑』を携帯して行って、少しずつ、草花の名前でも覚えようと企てた。毎朝五時には眼がさめる。子供や女中などはまだ寝ている間に、宿の後ろの丘の細径や、附近の溪流の畔を歩いて何かしら二、三種の草の花を抽いて来る。そうして露台のデッキチェアに仰向きになって『植物図鑑』をゆるゆる点検しながら今採って来た品種のアイデンティフィケーションに取りかかる。やっとなつくらい見付かる頃には、朝食の用意が出来た、と窓の内から声が掛かるのである。

寺田寅彦の次女・関弥生さんが文章を残している。（婦人生活社 「私の部屋ビズ」1995・春号 NO.18 インタビューに答える形の記事らしい。抜粋してみます。）

特集記事は、全国の庭を駆け巡っていたようだ。該当号では、『父・寺田寅彦から娘へと受けつがれた 花を愛する心』と題して、美しい文章が構成されている。

～東京・田園調布の高台に、四半世紀の間、目の覚めるような美しい花の庭が存在した。花好きの父の心を受けついで関弥生さんが、幼い日から夢みたイングリッシュ・ガーデン。父の名は、寺田寅彦。明治、大正、昭和、と時代を駆け抜けた感のある物理学者であり、文人、絵や音楽を愛した趣味人でもあった。植物にまつわる思い出は父没後60年を経た現在もなお一層鮮やかで娘のつくった花の庭にそれは象徴されている。～

関弥生さんの父は、寺田寅彦である。

寺田寅彦——日本における地球物理学者の先駆的存在、とくにX線による結晶構造解析の研究では、学士院恩賜賞を受賞、巷間では、夏目漱石門下の、『吾輩は猫である』の寒月、『三四郎』の野々宮のモデルとされる人物としても知られる。漱石も畏敬した文人として、詩情あふれる名随筆も多く残している。彼がいままたブームのように各方面で取り上げられているのは、文人科学者としての天才もさることながら、バイオリンやチェロを弾き、油絵を描く、芸術家としての面や、自由に科学を遊び、草花や生き物を愛したその生き方が、“50年早く生まれてしまった寺田寅彦”として、現代人を無性に惹きつけるからだ。

そんな父を持った娘は、父の書斎の洋書を見て花の庭を夢み、父のつくった庭に遊び、ここまで美しい花咲き乱れる庭をつくった。

弥生さんが結婚するときに、父・寅彦の書斎からもらってきたのは、ロンドンで発行された《アイデアル・ガーデン》という美しい園芸の本の他に、軽井沢で父が書き込みをした牧野富太郎の植物図鑑。何度にも渡る転居の際も大切に手元に置き続け、昭和28年にこの地に居を落ち着けてから、ようやくゆったりそれらの本を繙けるようになった。

弥生さんが“さびしんぼう”といい、世に“寂しい子”と評された寺田寅彦の、寂しさを知っているからこそその芸術性、鋭さの裏側の優しく豊かで柔軟な情感——弥生さんの花の庭は、父から娘へと流れる血を感じさせる。

高知市の城西公園の北側にある寺田寅彦記念館の正門に牧野富太郎博士の文字が刻まれている。「寺田寅彦先生邸址」と「天災は忘れられたる頃来る」である。これは昭和27年に高知市が取り組んだ事業であるとのこと。（これも前号に詳述）

最後に両博士の銅像。寺田博士はオーテピア図書館の北東部。牧野博士は牧野植物園の南園。それぞれが右手に持っているのは椿の花であり、カラカサタケとのこと。植物を介して繋がっていた2人を象徴する銅像だとも考えられる。

「土佐有楽」。ピンク色の椿の名前。父・寺田利正が1882年の帰郷の折に寺田邸に持ち帰った。1945年の高知空襲で邸は焼失したが、土佐有楽（とさうらく）は140年の時を超えて今も1月から3月にかけて開花する。1958年の牧野植物園のオープンに際して寺田邸から挿し木されたというのも両博士のご縁かも知れない。

*

坂本龍馬、ジョン万次郎、民権婆さん……と土佐ゆかりの人物が登場した朝ドラ「らんまん」。後半から終盤にかけて寺田博士の登場を…と期待しているのは事務局だけではありません。読者の皆さんも応援してください。ぜひ、よろしくお願いたします。